

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については、事業推進責任者であるメディアコミュニケーションセンター長の傘下にある高校生キャリアデザイン講座実施ワーキンググループ、学生募集ワーキンググループ、広報ワーキンググループと事務局専任職員が中心となって高大接続事業を実施した。また、本事業は、学生募集から入試、カリキュラム、卒後教育に至るまで幅広い取組となるので、メディアコミュニケーションセンター長をリーダーに、教務委員会、入試委員会、FD委員会の他、地域貢献を担当する地域交流センター委員会の各代表者で構成する学長直轄の高大接続プロジェクトチーム会議により評価指標の適切性の判断や達成状況等事業の進捗状況の評価を行った。

中心となる取組については、高校生向けに「看護職キャリアデザイン講座」（「出前講座」「一日みかんかい生」）、「高校生のためのオープンクラス」、「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」及び入学準備教育を実施するとともに、保護者と高校教員向けに「看護職キャリアデザインサポート講座」を実施した。また、本学の取組の成果を広く知ってもらうため、高大接続シンポジウム『高大接続から高大社接続へ』を開催した。

取組の成果については、「看護職キャリアデザイン講座」を実施することにより、高校生は看護職について理解を深め、自身の適性を見極めたうえで、看護の道を選択することができた。これまで、本講座への受講を経て本学に入学した学生に進路変更を理由とした休退学者はおらず、看護系大学進学後の進路変更等を理由とする休退学防止に貢献できたと考えられる。

また、大学の講義を高校生に開放する「高校生のためのオープンクラス」を実施することにより、参加した高校生は普段の大学の雰囲気や学生の様子、大学での学びや大学で看護を学ぶということを感じ、自身の適性や将来の進路について考える機会となった。

そして、「看護職キャリアデザインサポート講座」の実施により、高校生の進路選択に影響を与える保護者と高校教員に対し、看護職への理解を促進することができた。

さらに、県内医療機関との連携（大社接続）の取組として、推薦入試により早期に入学が決定した入学予定者を対象に開催した「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」では、入学前に県内医療機関との接点を設けた。将来の就職先になり得る様々な医療機関についての情報を得ることで、入学予定者の学修へのモチベーション向上と看護職者としての職業観形成につながった。

加えて、入学予定者の入学後の学修の円滑な開始を支援するために、看護学を学ぶ上で基盤となる科目の入学準備教育を実施することで、入学までの間、学習習慣が継続するとともに、入学後の学修に必要な力をつけることができた。

それ以外にも、県教育委員会、県内高校との連携（高大接続）では、意見交換会や評価委員会、シンポジウム等のさまざまな機会を通して、情報交換・情報共有を図った。高校側の要望や意見を聴取することで、対象者のニーズに沿った取組へと改善していくことにつながった。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、引き続き事業が実施できるよう、学内においてはFD・SD研修会により教職員間での高大接続事業の成果及び課題を共有するとともに、学外においては高校や医療機関との連携体制の強化に努めた。

学内外への波及効果については、会議等における事例報告や本学ホームページ等による情報発信等とともに、今年度は、本学の取組の成果を広く知ってもらうため、高大接続シンポジウム『高大接続から高大社接続へ』を開催し、本事業のこれまでの取組の成果を報告するとともに、高校、大学それぞれの立場から、大社接続も視野に入れたこれからの高大接続のあり方について共に考える契機となった。また、シンポジウムにおいて、事業報告の一環として学生発表を行ったことで、本事業の成果を目に見える形で参加者に伝えることができた。